

アマモ再生活動で得たもの

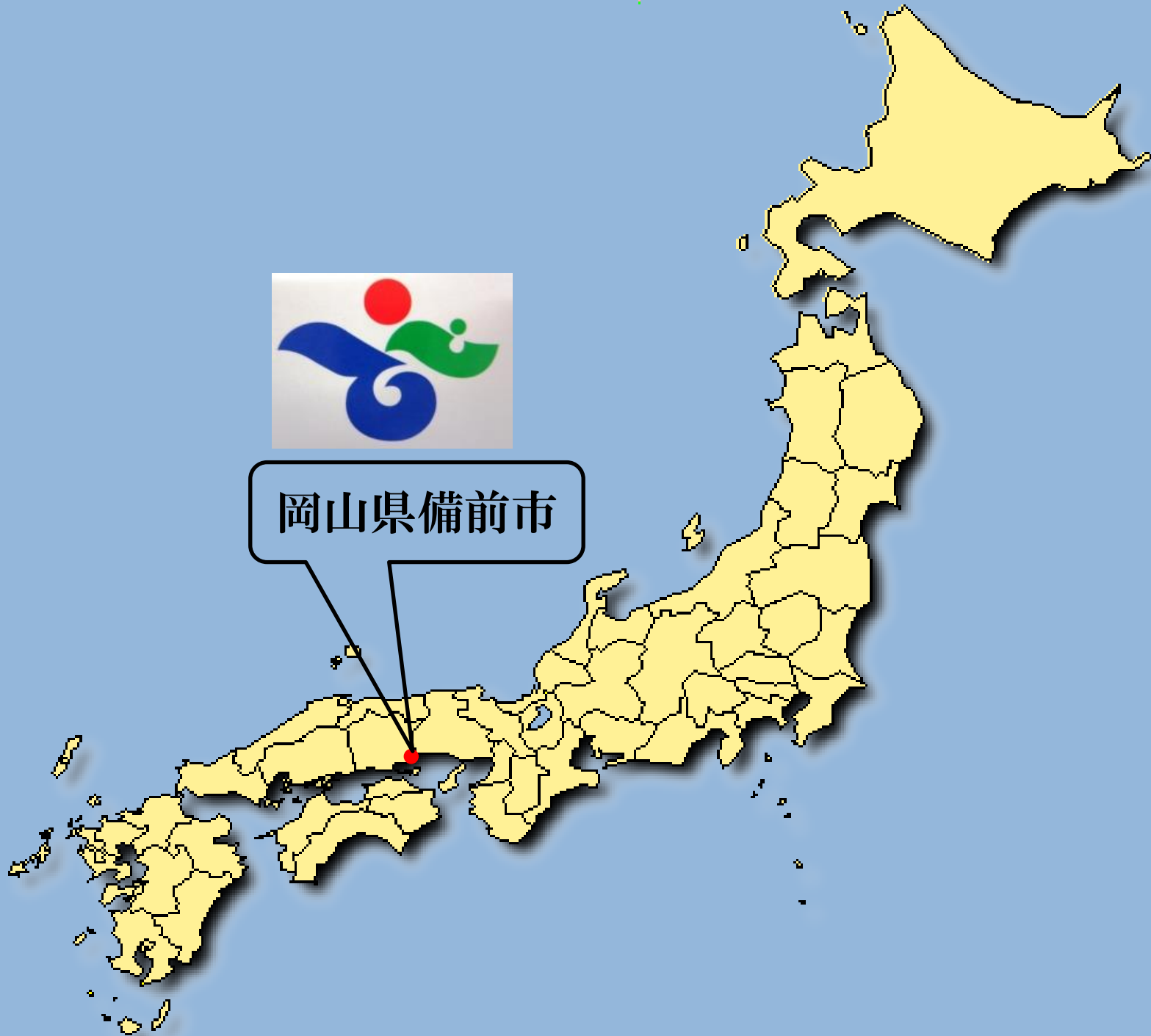
～目指せ持続可能な里海づくり～

昭和40年代の 旧日生町漁協前





岡山県備前市



日生町漁業協同組合の概要

・組合員数 正組合員71名・准組合員52名。(漁業者世帯数)

・主要漁種

漁船漁業 壺網(小型定置網)、小型底曳網、流し網(刺し網)。

養殖漁業 かき養殖漁業。

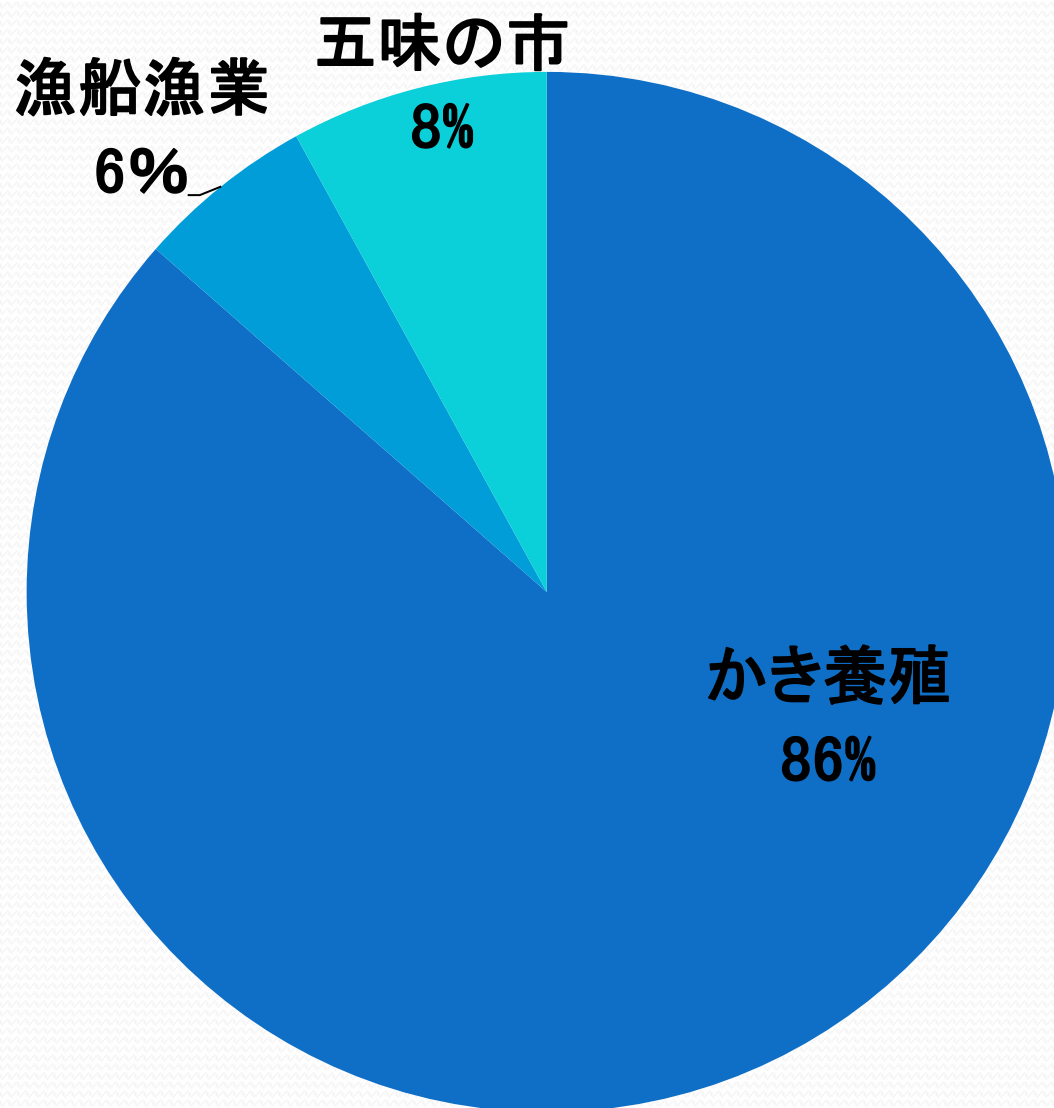
五味の市

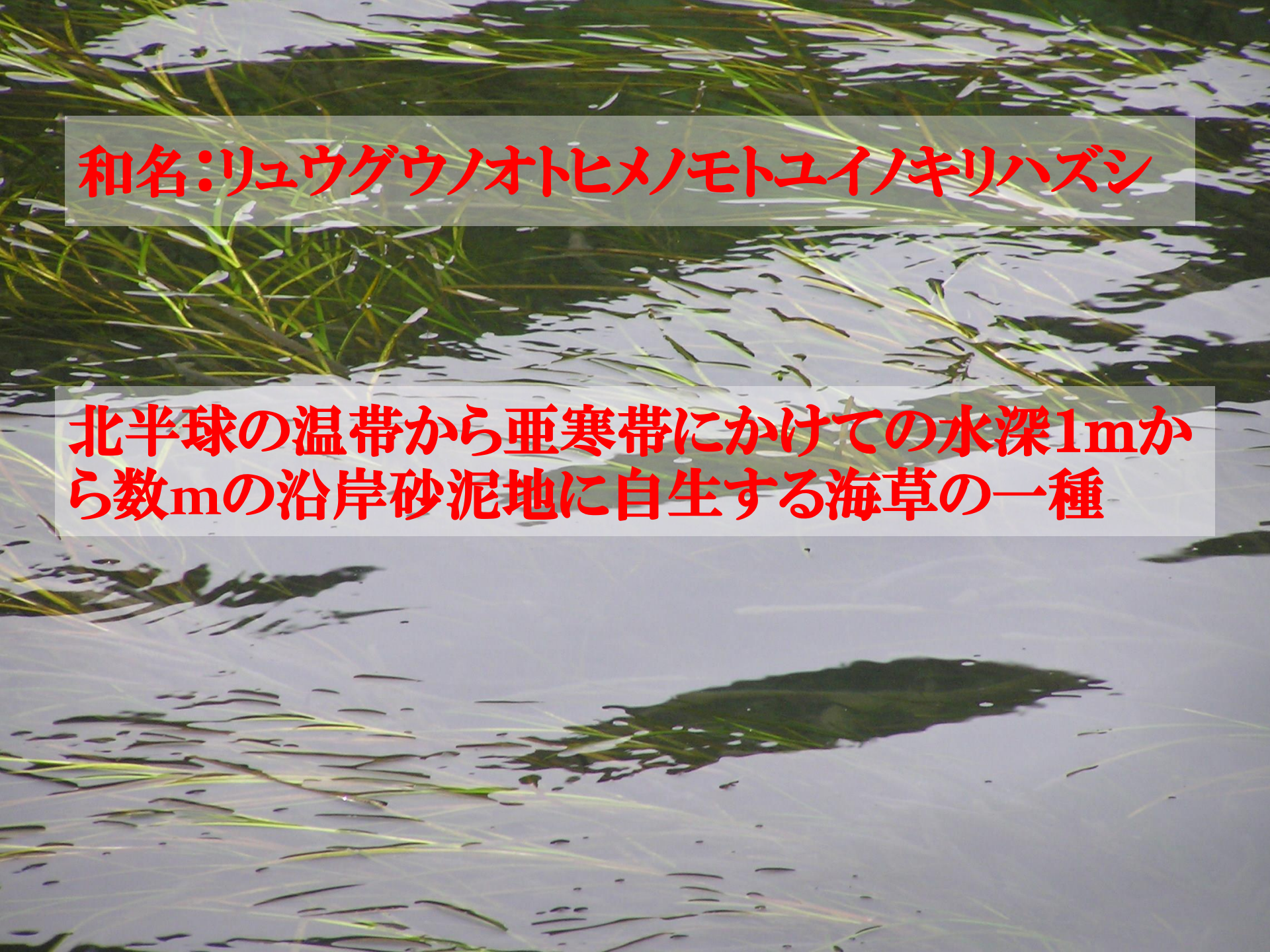
漁業者が獲った魚を直接販売する施設。 究極の流通システム
瀬戸内海の漁業 ⇒ 少量多品種 四季折々の色々な味が名前の由来
時間と経費が係らない。

新鮮で安価でお客様に提供できる。 年間40万人利用



令和元年度水揚げ金額 かき1,400t(むき身換算)



The background image shows a dense field of seagrass, likely Ruppia, growing in shallow, calm water. The long, thin, green blades of the seagrass are visible, some floating on the surface and others submerged. The water is a light, silty grey color, reflecting the ambient light. The overall scene is a natural, underwater or near-surface view of a healthy seagrass bed.

和名：リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ

北半球の温帯から亜寒帯にかけての水深1mから数mの沿岸砂泥地に自生する海草の一種

アマモ場の機能

魚介類の産卵場所

稚魚の成育場所

(天敵から身を隠す)

水質の浄化

光合成により、二酸化炭素を吸収し酸素を排出する

地下茎から土中の有機物を取りこむ

アマモ場

小魚の餌場

アマモの葉には甲殻類や、多毛類(ゴカイ類)が豊富に生息しており、海底は多毛類や二枚貝(アサリ等)が生息

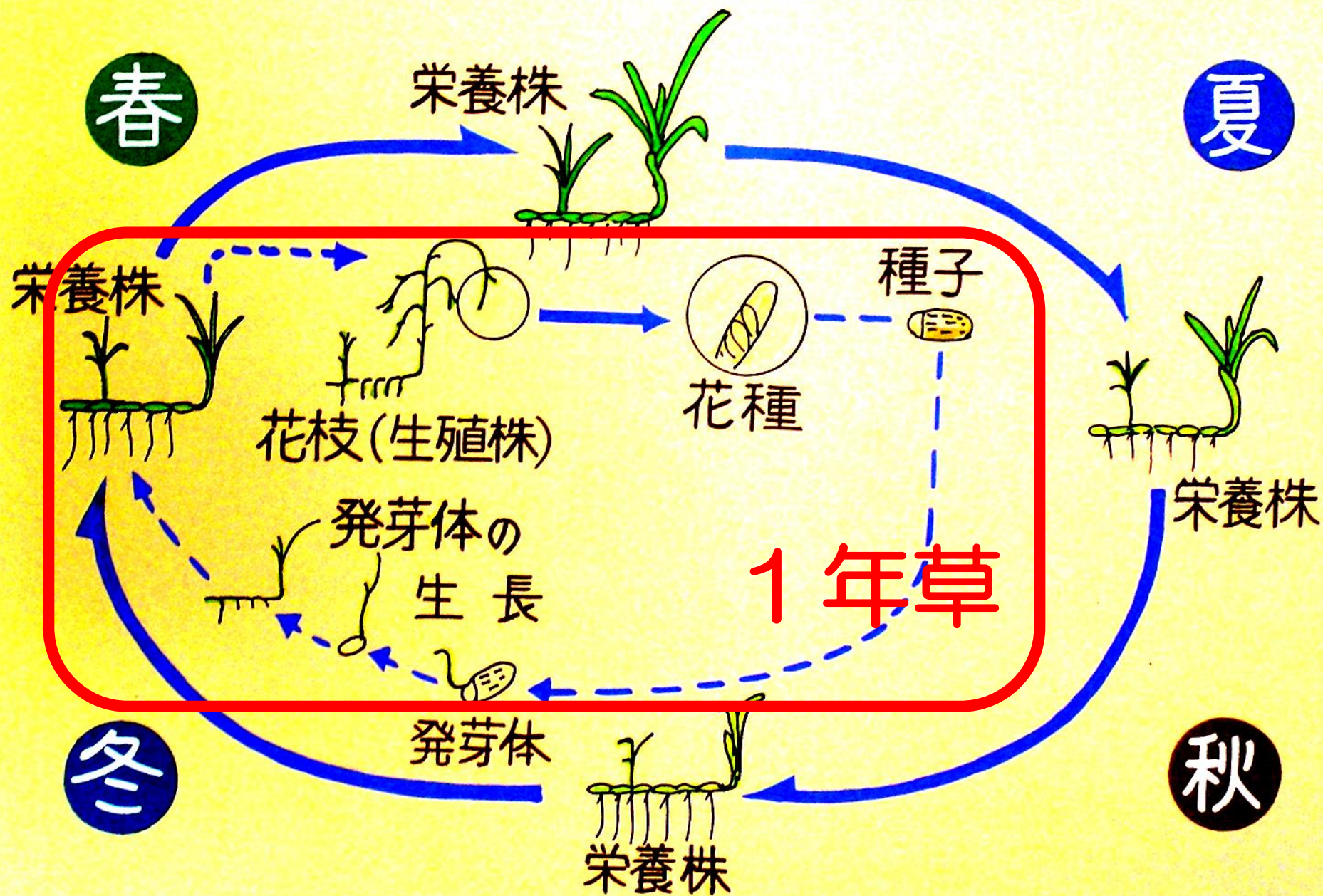
栄養分の再配分

海藻類に比べて分解速度が極端に遅く、徐々に分解しミネラル分を還元する。

『海のゆりかご』

と言われ、海の環境にとって重要な役割を果たす植物なんです。

アマモのライフサイクル



アマモ場造成活動について

5月下旬～6月初旬 花枝の採取



保管袋吊り下げ



9月下旬～10月初旬 種選別



10月初旬 播種





日生町地先におけるアマモ場面積の推移

1945年頃



590ha

1971年



82ha

1985年



12ha

高度経済成長期、全国的に垂直護岸が形成され浅場が減少した上、生活排水は垂れ流し状態であったため沿岸域の環境が悪化しアマモ場が激減したと言われています。

日生町漁協アマモ場再生の取り組み



故 本田和士 元組合長

1985年、沿岸部を中心に漁業を営む小型定置網（壺網）の漁業者が漁獲不振について何が原因なのか考えた。

ふと気がつくと一時期は航行の妨げになり邪魔者扱いされていたアマモが海岸から姿を消していた……

まずは、アマモ場を増やそうと当時の壺網代表者（元組合長）本田和士氏が壺網漁業者を束ねアマモ場再生活動を始めた。

当初他の漁業者から、お金にもならないのに何になるのか等の非難を浴びながらも毎年コツコツと活動が続けた。環境の変化でまるで生えない年もあったが諦めずに継続した結果ようやく成果が見え始めました。

壺網



最初の1歩



3定点15万粒 播種

鹿久居島

天然アマモ自生場所

大多府島

昭和60年活動風景



意気込んで活動始めたが、なかなか成果は表れなかった。

原因を調査したところ海底に問題があり、色々と底質改善を試み、かき殻が有効であったので、造成場所にかき殻を敷設し順調にアマモ場が拡がり始めた。

環境の変化で不安定な成果ではあったが、行きつ戻りつを繰り返し、活動開始から25年経過した2010頃から一気にアマモ場が拡がり始めた。







試験区に繁茂するアマモ

2009年より若手漁業者、後継者で 活動組織を結成

日生藻場造成推進協議会

結成当初83名

現在104名

平成21年度～環境・生態系保全活動支援事業
平成25年度～水産多面的機能発揮対策事業を活用

応援団

(公財)笹川平和財団・NPO法人里海づくり研究会議・おかやまコープ・
NPO法人共存の森ネットワーク等のご協力を頂いております。



日生藻場造成推進協議会会員83名
(アマモクラブ)

2012年 各々の役割に応じて連携し、
アマモ場造成活動を行い、瀬戸内海の環境保全
を推進する目的で

おかやまコープ・

NPO里海づくり研究会議・

岡山県・

日生町漁協で4者協定を締結する。

- ・DVD海のゆりかごアマモの恵み作成
- ・おかやまコープ組合員さんの活動参加



2013年から課題解決への取り組み

流れ藻回収大作戦

再生したアマモの花枝が最繁茂期に切れて流れ、航行の妨げに成っている。漂着した花枝は計画外の場所(港湾内)に拡がっている。一般住民に迷惑を掛けている。

流れ藻の種子をアマモ場再生に使おう!!





聞き書き



1985年からのアマモ播種分布図



30年で1億200万粒を播種

備前市日生町地先における 現在のアマモ場分布図



2020年

(昭和20年頃の4割まで回復)
約250ha以上まで回復



全国アマモサミット2016in備前

備前発！里海・里山ブランドの創生 ～世代をつなげて～

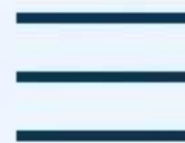
2016年6月3日～5日開催



3日間で参加者2000人



**備前市里海里山ブランド
推進協議会 with ICM**



備前市里海里山ブランド 推進協議会 with ICM

里海里山には地域の未来があります。

備前で官民連携の協議会発足

ブランド産品発掘、開発

協議会は、市、日生町、瀬戸、伊里瀬、J A岡山東、備前観光協会の代表者ら12人が出会など8団体の代表者で構成。NPO法人・里海・里山づくり研究会(岡山県)と備前平和財団海洋政策研究所(東京)などがアドバイザーを務める。総会後、第1回合会を開き、ブランド産品の発掘や開発などに取り組む。

(平松隆)

アマモサミット 知見生かす

の発掘や開発をはじめ、里海・里山づくりの推進に向けた計画の策定、環境教育など事業概要を確認。また、実働部隊として各団体の実務者、まちづくり団体を加えた専門委員会を立ち上げる方針を決めた。

今協会は「市にとって豊かな里海や里山は大切な資源で、次世代に引き継ぐ責務がある。自然の恵みの有効活用にも努め、市の持続的発展につながるような取り組みを展開したい」と述べた。

全国アマモサミットは、魚介類の産卵・成育

里海・里山づくり推進

場所となるアマモ場の再生をテーマに約2千人が参加して開催。地元関係団体で構成のサミット実行委員会は昨年10月に解散する際、「人と自然が共存する組織の設立方針を掲げたい」とした。サミット大会宣言の実践や培ったネットワークの継承などを狙い、山間部でまちづくり活動に携わる団体も加えた新組織の設立方針を掲げたい。



備前市役所で開かれた「市里海・里山ブランド推進協議会」の第1回合会

備前市里海・里山ブランド推進協議会 with ICM 設立(2017.2)

◆協議会規約第2条(目的)

- (1) 豊かな自然環境の保全・再生を図るための活動を行うことにより創出される地域資源の発掘・開発
- (2) 里海・里山ブランドの利活用を通じた、地域経済の活性化及び持続可能なまちづくりの推進
- (3) 次世代を担う若者を応援し、未来へ引き継ぐ資源を守り育てるための教育の推進



専門部会



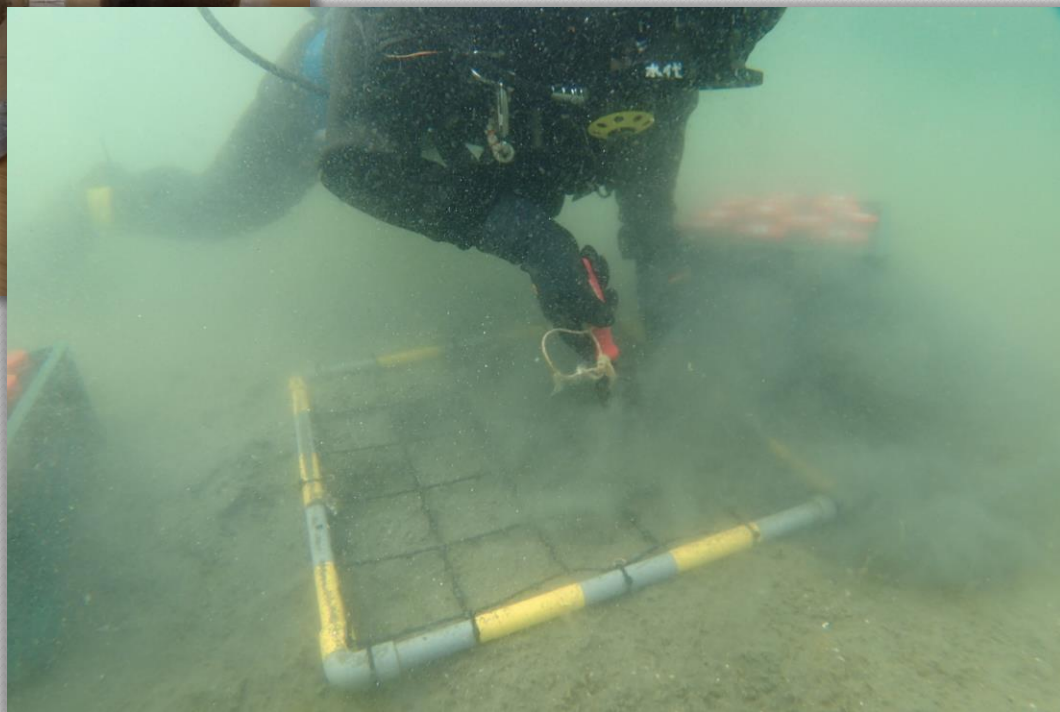
◆協議会規約第2条(目的)

(3) 次世代を担う若者を応援し、未来へ引き継ぐ資源を守り育むための教育の推進

アマモ場再生活動を核にした
海洋教育



日生西小学校
アマモポット作成~移植



岡山学芸館高校



一緒に活動をしている岡山学芸館高校です。





海洋教育の拠点 ひなせうみラボ (渚の交番)



目指せ持続可能な里海づくり

30年以上の年月をかけ、地道にアマモ場再生活動を継続し何とか成果が見える様になってきました。

これまでご指導、ご協力頂いた大勢の日生応援団に深く感謝いたします。

又、里海の理念からも人が自然に対し少しずつ恩返しをして行けば循環可能な漁業が実現できそうな気がします。

活動を持続するためにも海の守人である漁業者が中心となり次世代へ繋げて行く事が大切だと思います。

ご清聴ありがとうございました。
そしてこれからも、よろしくお願いします。